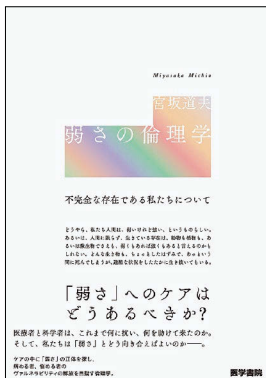


今月の3冊 プラス +1



弱さの倫理学 不完全な存在である私たちについて

著：宮坂道夫
発行：医学書院
定価：2420 円（本体 2200 円＋税 10%）

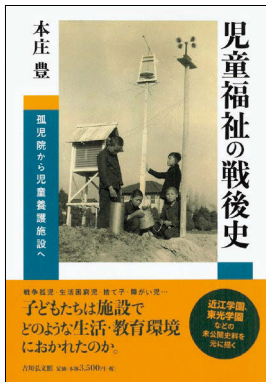
人はあらゆる弱さを抱え生きている。その弱さはどこからくるのか、どう向き合ってきたのか。自らの弱さに対応するため、人はさまざまな技術を生み出す一方、その恩恵にあずかれない存在への配慮を蔑ろにし、多くの倫理的問題を露呈させてきた。こうした問題意識を踏まえ、弱さの持つ可能性を探究する。



病氣と治療の文化人類学

著：波平恵美子
発行：筑摩書房
定価：1320 円（本体 1200 円＋税 10%）

「医療人類学」を提唱した 38 年前の画期的著作の文庫化。科学が発達しても避けられない病氣に対し人は関心を寄せ、さまざまな意味付けを行ってきた。「シャーマニズムと病氣」「明治期のコレラ流行による社会的混乱」「ユタによる治療の実態など」多様な事例とともに、病氣に、社会的・文化的に焦点を当てて論考する。

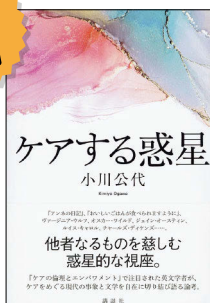


児童福祉の戦後史 孤児院から児童養護施設へ

著：本庄 豊
発行：吉川弘文館
定価：3850 円（本体 3500 円＋税 10%）

敗戦後町にあふれた“浮浪児”と呼ばれた子どもたち。戦争孤児だけでなく、なかには捨て子や障害を持つ子もいた。彼らを収容した孤児院は、のちに児童養護施設や障害児施設へと変貌していく。未解明だった児童福祉の戦後を、近江学園や東光学園などの施設史料をもとに読み解き、「家庭」の歴史も振り返る。

手軽な
+1



ケアする惑星

著：小川公代
発行：講談社
定価：1760 円（本体 1600 円＋税 10%）

「いつか地球が〈ケアする惑星〉の名にふさわしい場所になることがあれば、それは“ケアする人”が大切にされるときだろう」。女性たちが担うケアをめぐるさまざまな葛藤や現象を、『アンネの日記』などの文学作品やケアをめぐる現代の事象を媒介に、英文学者が多面的な視点から論じる。